

# 新指定関市重要文化財

市教育委員会では、文化の保護、伝承、活用に向けて、積極的に文化財の調査、研究を進めています。関市文化財保護条例に基づき、新たに2点を重要文化財に指定しました。

◆照会先 文化財保護センター ☎ 46-2313

## ●天然記念物 下迫間のシデコブシ自生地 (所在地: 迫間字大下)

シデコブシはモクレン科モクレン属の落葉樹で、同科同属のコブシとタムシバの交雑によって誕生したと考えられています。春先に白色から薄紅色の花を咲かせ、たくさんの花弁が放射状に開いている姿を紙垂(※1)になぞられてシデコブシの名がついたといわれています。

日本列島固有の種で、分布は東海地方に限られていますが、日当たりの良い湿地に生えるため、開発などで伐採されやすく、現在では絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。市内ではこれまでに数箇所の自生地が確認されていましたが、今回は下迫間の自生地を指定し、保護していくことになりました。

コブシに比べて小ぶりなので、別名ヒメコブシとも呼ばれますが、春先に可憐な花を咲かせた姿はとても美しく、見る人の心を和ませてくれます。

※1: 紙垂—御幣や玉串に垂れ下げる幣紙



## ●史跡 砂行1号古墳 (所在地: のぞみヶ丘)

古墳時代中期(5世紀前半)の古墳です。標高約93mの尾根頂部に立地し、直径22m、高さ3m(復元高3.8m)の規模を測ります。形状は南西に造り出しを持つ円形で、表面には全体に石が葺かれていたことがわかっています。

発掘調査によって2つの埋葬施設が見つかっています。1つは盗掘されていましたが、鉄刀、短甲※2の破片が出土し、もう1つからは直径11.1cmの銅鏡(神獸鏡※3)が出土しました。

砂行1号古墳の南西崖下には祭祀の跡である大溝も発見されています。当地域は「古事記」や「日本書紀」などの史料にみえる古代豪族ムゲツ氏の本拠地であり、平安時代に成立した「延喜式」(※4)によると、ムゲツ氏は立春に若水を汲み天皇に献上する役割を担ったとされていることから、水の祭祀との関わりが深い氏族であったといわれています。古墳の被葬者は、眼下の大溝の祭祀を司ったこの地域を治めた首長であり、古墳時代のムゲツ氏の一族である可能性が高いと考えられます。

※2: 短甲—胴体を覆うだけの丈の短い鎧

※3: 神獸鏡—神仙界の理想郷を図案化した鏡で、鏡の文様に神像と獣像をあしらうことから、こう呼ばれています。

※4: 延喜式—平安時代中期に編纂された法典で、律令の施行細則を取捨・集大成したものの。

